

2017年度卒業生 バネ

夏が来ました。夏休みに入れば中3は連日の夏季講習。入試に向けての特訓が始まります。まさに勝負どころです。そんな夏季講習ですが、昨年の中3の中にこれがきっかけで奮起した子がいました。今はその子のエピソードです。

小学生の時から当塾に通っていたその子は、抜群の言語センスを持っていました。何かを問いかけると、ユーモアたっぷりに返してくれます。小5の時からすでに大人と対等に会話のできる素晴らしい日本語力を持っていたのです。そんな彼女ですから塾の授業内容を理解することに問題はありません。宿題や確認テストも最低限こなし、中学入学後も学校の定期テストでは学年トップをはじめ常に上位にいらしていました。ただ、自分のセンスにのみ頼っているところがあったので、がむしゃらに努力したという経験のないまま中3の夏を迎えました。

中3生は部活その他のため夏季講習を欠席せざるをえない時があります。その際は授業で進んだワークは自分でやっておき、5教科の確認テストはその日のうちに受けに来なくてはなりません。ある時彼女もそんな状況になりました。ある日の塾を欠席しなくてはならなくなったのです。国語、理科、社会、英語の確認テストは範囲をしっかりと勉強しなければ合格点はまず取れません。この4教科は勉強してから受けに来るけれど、「数学は勉強しなくてもいけるかもしれない・・・。」彼女の中にそんな思いがよぎりました。テスト内容は「方程式」、今まで問題なくできていたところでした。そして勉強しないまま確認テストを受けた結果、なんと不合格。今まで取ったこともないような点数でした。ぼそっとつぶやいた言葉が「なめてた・・・」。やっと本気の火が着きました。できていたつもりの単元も全てきちんと勉強し直してからテストに臨みました。数学には他の教科の3倍の時間をかけて練習問題を解きまくりました。

夏の終わり、張り出されていたテスト結果表の彼女の数学欄には初めの失敗以降、きれいな合格点が並びました。初めての“努力の証”です。その後も入試まで努力を続け、本番でも数学をはじめきちんと点数を取って、見事志望校に合格することができました。

「お元気にされてますか。」—先日お電話した際、お母さんと少しお話ができました。その時のお母さんのお言葉が印象的でした。「高校で勉強に少し苦勞する点もありますが、そこをバネにすることが出来る子です。」—深い信頼。失敗から立ち上がっていく強さを持っていることをちゃんとわかっていて、信じて見守っていらっしやる。うれしくなりました。きっとこれからも彼女は失敗をバネにして進んでいくことでしょう。私も信じ、ずっと応援しています。